

令和2年3月31日

校長 須永 修爾

開校16年目を迎えた本年度は、東京都教育委員会から再指定を受けた「東京グローバル10」の研究2年度でもあり、ベトナム国立大学2校との姉妹校交流およびベトナムビジネス研修を深化させるなど、創立20周年に向けた「進化し続ける千早」の具体的な方向性を示すことができた。

開校以来本校を支えてきた教職員が毎年転出していく中、主幹教諭・分掌主任を中心とした校内OJTのより一層の充実を図り、様々な課題を「チーム千早」として迅速かつ組織的に解決できる体制を構築する。

以下に、平成31年度の取組とその成果及び課題等について報告する。

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1) 教育活動への取組と自己評価

	取 組	自己評価
学校経営 (学校運営)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 広報活動について、総務情報部を中心に、全校体制による学校説明会等に組織的に取り組んだ。</li> <li>② 授業力向上について、各教科における人材育成、授業公開や若手教員研修を活用した教員相互による授業参観等を行った。</li> <li>③ 校内OJT体制について、分掌及び委員会、研究指定事業等を効果的に活用した。特に拡大分掌会の充実を推進した。</li> <li>④ 個人情報について、「千早ハンドブック」(校内諸規定集)を遵守するとともに、通年でクリーンデスクを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 精力的に中学校訪問、出前授業、区立中学校長会主催情報交換会に全教職員が参加した。推薦入試2.51倍、学力検査1.33倍であった。</li> <li>② 授業参観等校内での人材育成は順調に進められている。外部の情報収集をさらに強化する。</li> <li>③ 教務・生活・進路の拡大分掌会を定着させた。次年度以降月2回程度開催する。</li> <li>④ 「千早ハンドブック」を毎年更新し、見直し・改善を重ねていく。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習指導について、各教科でグループワークやプレゼンテーション等を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める工夫を行った。</li> <li>② 基礎学力の定着について、国語と英語の必履修科目で習熟度別少人数授業を展開した。</li> <li>③ 学校設定科目「ERP(多読と発表)」について、指導体制及び指導方法の充実を図った。</li> <li>④ ビジネス教育について、企業やNPO、地域等との連携した授業を展開した。</li> <li>⑤ 学力スタンダードについて、第1・2学年必履修科目の学習目標を明確に示し指導と評価を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 英語科、ビジネス科を中心にアクティブラーニングの手法を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを継続推進できた。</li> <li>② 生徒の主体的な学習態度を育成するため、学習時間のしかけに工夫が必要である。</li> <li>③ 「使える英語」を楽しく学習させるため、「ERP」を中心に、英語教育のさらなる充実を促進する。</li> <li>④ 実社会との関わりを通じて「役立つビジネス」を実感できる指導を展開した。ソーシャルビジネスの観点を重視した「千早ビジネス教育」を実践することができた。</li> <li>⑤ 学力調査の結果を踏まえ、生徒の学力を正確に把握し、指導内容・方法の改善を引き続き図る。</li> </ul>

生活指導・進路指導	<p>① 生活指導について、「生活指導統一基準」に基づき、千早生として身に付けるべき規律・規範等を明示し生活指導の充実を図った。</p> <p>② 教育相談について、保健厚生部を中心に、スクールカウンセラー（SC）を活用し丁寧に対応した。</p> <p>③ 進路選択について、進路指導部を中心に「千早進路ロードマップ」に基づき、学年別進路セミナーや進路模擬試験、卒業生講話等を系統的・計画的に展開した。</p> <p>④ 進路実現について、小論文対策委員会を中心に、多様な受験にきめ細かく対応し、組織的に指導した。生徒の進路希望に応じて一般受験者への補習授業も実施した。</p>	<p>① グローバル人材としての基礎となるタイムマネジメントやルール・マナーを身に付けさせるため、正門指導、朝礼、集会、学校行事、課外活動等を通して、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規律ある学校文化の定着を推進した。遅刻指導・身だしなみ指導の共通理解に改善の余地あり。</p> <p>② SCによる第1学年生徒の全員面接、生徒・保護者への講演会、教員研修を実施するとともに、教育相談委員会を定期的（原則毎月1回）に実施することで、教育相談体制を充実できた。</p> <p>③ 将来の進路選択及び進路実現に向けて、キャリアセミナー等の実施により、大学卒業後を見据えた進路選択の在り方、いま取り組むべき内容についても指導できた。</p> <p>④ 生徒の多様な受験を支援し、進路決定を実現するため、小論文対策委員会の改善・充実を図った。一般受験希望者への組織的な対応が引き続き課題である。</p>
特別活動・その他	<p>① 「英語」と「ビジネス」の融合について、英語部にビジネス科教員を顧問として配置、JET青年をビジネス科課題研究の授業で活用など、様々な形で教育活動を組織的に展開した。</p> <p>② 地域連携について、世界規模の視野で物事を考え地域の視点で行動する能力を育成するため、地域や関係諸機関等と連携し、「グローバル」な視点での教育活動を展開した。</p> <p>③ オリンピック・パラリンピック教育について、世界ともだちプロジェクト等を活用した教科指導や学校行事を通して、豊かな国際感覚の醸成等に取り組んだ。</p> <p>④ 「アクティブプラン to 2020-総合的な子供の（第3次推進計画）」の基礎体力向上方策に基づき、「栄養・運動・休養（健康三原則）」に照らし、朝食摂取率の実態把握をする。体力テスト数値の都平均值との比較をする。</p>	<p>① 「イングリッシュ・ビジネスプラン・コンテスト」に出場チームが優勝するなど、英語科とビジネス科融合により、ビジネスコミュニケーション科の個性化・特色化をより一層図ることができた。</p> <p>② 地域の課題について、近隣自治会や豊島区等と連携して解決を図った。グローバルな視点をもったグローバル人材の育成に継続して取り組むことができた。</p> <p>③ 世界ともだちプロジェクト対象5か国について、ビジネス科、英語科、文化祭などで、調査研究・発表を実施し、国際感覚の醸成を推進した。特に、ベトナムについては、修学旅行、ビジネス研修を通じて交流し、相互理解を深めた。</p> <p>④ 毎日の朝食摂取率は80.5%であった。100%に近づける取り組みを行う。体力合計点全学年平均値は50.3点。都平均51.6。都平均に追いつくことが課題。</p>

## (2) 重点目標への取組と自己評価

取 組	自己評価
① 広報活動の充実について、本校の特色ある教育活動を広く都民に発信するため、学校ホームページを効果的に更新するとともに、中学校訪問、出前授業等の充実を図った。	① 学校ホームページを活用して、特色ある授業や学校行事について随時紹介した。中学校訪問、出前授業、学校説明会等も要請があれば、極力対応した。
② ICT活用について、ICTリーダーを中心に、各教科でICT機器の実践的な活用に取り組んだ。	② 各教科でICT機器を活用し、生徒の興味・関心を高める授業を展開することができた。相互授業参観によって、ICT機器活用の工夫について理解を深めることができた。
③ 予算について、経営企画室と職員室の密な連携の下で、適切な予算編成・管理・執行を行い、教育資源の充実を図った。	③ 予算調整会議、ヒアリング等を適宜実施し、自律経営予算、生徒会予算を適切に編成・管理・執行した。
④ 「東京グローバル10」指定校として、生徒の英語力の向上を図るため、特色ある英語教育や国際理解教育を推進するとともに、ビジネスコミュニケーション科としての特色ある教育活動にも取り組んだ。	④ オンライン英会話やJETプログラムの効果的な活用、ベトナムビジネス研修・イギリス語学研修・多言語学習講座の実施等により、千早独自の英語教育・国際理解教育を推進できた。
⑤ 「使える英語」の定着について、英語の定期的な効果測定に基づく学習指導の改善・充実を図った。	⑤ 外部検定試験等も活用して、英語4技能の定着・伸張、「使える英語」の定着を図った。
⑥ 自学自習時間の増加について、課題提示の工夫・改善、学校図書館の効果的な活用等に取り組んだ。	⑥ 定期考査期間以外の自学自習時間を増加させることはできなかった。改善が必要である。
⑦ 生命尊重をはぐくむ教育について、生活指導部を中心に、関係機関等と連携した実践的・体験的な学習に取り組んだ。	⑦ 警察署、消防署、地域町会、児童相談所等の関係諸機関と連携し、様々な教育活動を実践することができた。家庭との連携を深め、自らを守る能力や他者を尊重する心の醸成をさらに推進していく。
⑧ 道徳教育・キャリア教育について、CSL委員会を中心に「人間と社会」の組織的な運営を推進した。	⑧ 組織的体制構築に向けて、CSL委員会、教務部、学年の連携をさらに深める必要がある。
⑨ 進路実現について、「千早進路ロードマップ」に基づき組織的に取り組んだ。	⑨ 一般受験を含めた生徒一人一人の進路実現を図るため、補習・補講の体系化、組織的・体系的な指導方法の工夫を推進していく。
⑩ 海外修学旅行について、第2学年を中心に姉妹校交流、B&Sプログラム、異文化体験等に取り組んだ。	⑩ 姉妹校提携校と初めての学校間交流を実施した。国際理解をより一層推進するため内容の見直しを図る。
⑪ 各部活動について、年間目標や指導方針を定め、体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開した。	⑪ 自主的・自立的な活動のさらなる推進を目指し、年間目標や指導方針の改善、部長会の活性化等を推進する。体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開する。
⑫ 文化・スポーツ特別推薦の活用により、部活動の充実と学校の活性化を図る。	⑫ バレーボール特別推薦の効果検証を行う。

### (3) 数値目標の達成状況

	項目	目標 ※( )は昨年度	実績
入学時	①推薦入試倍率	3.3倍以上(3.00倍)	<b>2.51倍</b>
	②学力検査倍率	1.33倍以上(1.30倍)	<b>1.33倍</b>
在学时	③自律経営推進予算の執行率	100%(98.3%)	<b>97.9%</b>
	④生徒による授業評価の満足度	90%以上(85.4%)	<b>83.6%</b>
	⑤家庭等での学習時間	1時間以上(40分)	<b>37分</b>
	⑥教育相談の肯定的評価	80%以上(61.0%)	<b>59%</b>
	⑦部活動加入率	80%以上(80.0%)	<b>77%</b>
	⑧夏季英国研修参加者	20名以上(24名)	<b>29名</b>
	⑨実用英語検定準2級以上受験者	300名以上(323名)	<b>263人</b>
	⑩クラス1日当たり遅刻者数	1人以下(1.73人)	<b>2.2人</b>
	⑪全商簿記検定3級以上合格者	200名以上(179名)	<b>179名</b>
	⑫学習環境満足度	80%以上(78%)	<b>83%</b>
卒業時	⑬進路決定率	100%(95.1%)	<b>89.9%</b>
	⑭進学希望者の進路決定率	100%(93.5%)	<b>92.4%</b>

## 2 次年度以降の課題と対応策

課題	対応策
① 新教育課程の検討	① 2021年以降の大学入試改革、2022年の新学習指導要領全面実施に向けて新教育課程のグランドデザインからカリキュラムを完成させる。
② 進路指導の充実	② 新たな大学入試制度を踏まえ、各種模擬試験の在り方や多様な受験方法への対応を検討する。
③ 学校PR活動の強化	③ 本校独自の取組や進路指導状況等についての効果的な発信方法を検証し、募集対策活動の改善を図る。
④ 各教科間の連携	④ 英語とビジネスをはじめ各教科間の連携を深め、ビジネスコミュニケーション科としての特色化を図る。
⑤ 学校2020レガシーの構築に向けた取り組み	⑤ 全ての教育活動を、ボランティアマインド、障害者理解、豊かな国際感覚を重点にさらに発展させる。
⑥ 校内OJT体制の充実	⑥ OPの効率化、分掌主任への権限委譲等により、主幹・主任層の人材育成を充実させる。
⑦ グローカルの追究	⑦ 地球規模の視野で考え地域視点で行動するグローバルな考え方を踏まえた教育活動をより一層発展させる。
⑧ 新しい学びへの対応	⑧ ERP、ICT、アクティブラーニング等に対応した教室等の環境整備を充実する。

### 3 数値で見る学校経営（過去5年間）

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入選倍率	推薦	2.63倍	2.90倍	2.84倍	2.59倍	3.00倍	2.51倍
	学力	1.27倍	1.41倍	1.44倍	1.03倍	1.33倍	1.33倍
	中学校長会調査	1.00倍	1.15倍	1.12倍	0.94倍	1.18倍	0.96倍
進路別卒業生数	大学	126名 (62.6%)	137名 (68.6%)	121名 (60.2%)	119名 (59.2%)	107名 (60.6%)	-
	短大	14名 (6.9%)	5名(2.5%)	11名 (5.5%)	7名 (3.5%)	9名 (5.1%)	-
	専門学校	48名 (23.8%)	32名 (16.1%)	42名 (20.9%)	40名 (19.9%)	46名 (26.3%)	-
	就職	4名(1.9%)	3名(1.5%)	4名 (2.0%)	2名 (1.0%)	7名 (3.4%)	-
	その他	9名 (4.4%)	22名 (11.1%)	23名 (11.4%)	13名 (6.5%)	24名 (1.7%)	-
	計	201名	199名	201名	181名	198名	-
検定受検者・合格者	英検準2級以上受検者	376名	330名	419名	323人	263人	-
	英検準1級	0名	2名	4名	0名	0名	-
	英検2級	25名	54名	36名	50名	29名	-
	英検準2級	64名	95名	106名	58名	53名	-
	英検準2級以上取得卒業生	82名	136名	113名	115名	117名	-
	全商簿記1級	27名	19名	21名	18名	10名	-
	全商ワープロ(ビジネス文書)1級	2名	2名	2名	0名	1名	-
	全商電卓1級	6名	6名	1名	0名	0名	-
文化祭来場者	2,696名	2,251名	2,198名	2,359名	1,985名	-	
学校図書館貸出冊数	1,955冊	2,190冊	1,832冊	1,568冊	1,227冊	-	
生徒による授業評価(満足度)	83.6%	83.7%	87.3%	85.4%	83.6%	-	
自律経営 推進予算	予算額	21,423,000	21,336,000	21,901,000	21,901,000	22,885,000	-
	決算額	20,764,699	21,069,100	21,521,569	21,443,415	22,722,000	-
	執行率	96.9%	98.7%	98.2%	97.9%	99.2%	-

#### 4 特色ある教育活動の主な実績 英語 E ビジネス B

- イギリス語学研修20名参加 E
- 英語4技能(Reading,Listening,Writing,Speaking)外部資格検定試験 (GTEC) E
- タブレットによるオンライン英会話演習を2学年で校内実施 E
- 実用英語技能検定 2級合格者29名、準2級合格者53名、準2級以上取得卒業生 合計117名 E
- English Business - Plan Contest 2019 1チーム出場 最優秀賞受賞 E・B
- ベトナムビジネス研修20名参加 B
- ベトナムホテルリゾートホテルインターシップ 6名参加予定
- 東京都商業教育研究発表大会 1チーム出場、優良賞受賞 B
- 東長崎納涼祭り、東麻布かかし祭り、長崎公園イベント等のボランティア活動多数 B
- 課外活動CBP (千早ビジネスプロジェクト) において、JAL、日本テレビ、マイナビ他10社以上、東長崎、港区東麻布、こども食堂等の地域ボランティア10回以上、大学連携プロジェクト (東北芸術工科大学・山形) 等の実施 B
- 3年課題研究「商品開発」商業教育コンソーシアム東京 研究発表 B
- 全国英語教育研究団体連合主催第58回全国高等学校生徒英作文コンテスト1年の部 文部科学大臣賞 E